

## 研修報告書 No.15

所 属： 昭和大学江東豊洲病院

氏 名： 林 秀憲

研修先： 梶原病院

2023年12月の1か月間、私は梶原病院で地域医療研修を行いました。

梶原町は高知県の山間部に位置する人口約3000人の町です。梶原病院は町内最大の病院であり、町内全域の医療を担っています。私は梶原病院を訪れるまでそのような地域病院には長年その病院を切り盛りする経験豊富なベテラン医師ばかりいるというイメージを持っていましたが、実際にはフレッシュな若手の先生方が互いに協力しながら地域医療を支えていました。先生方は内科診療だけでなく脱臼の整復や創傷処置などの外科対応、胃カメラなどの専門的手技、レントゲンやCTの撮影・血液検査などの検査対応まで幅広い医療をカバーしており、日頃は大学病院で病棟や外来業務にしか携わっていない私にはそのオールマイティな仕事ぶりが大変印象に残りました。

また、専門外来や専門的な治療手段が乏しい中で、より専門的・より高度な医療が必要な場合には周辺の病院に患者を紹介するタイミングを考えながら診療を行っており、地域の病院での医療の難しさを目の当たりにしました。

次に私の印象に残ったのは、梶原病院の医師を含め医療スタッフの方々が梶原町の町民の1人1人を把握していることです。もちろん全ての町民を把握しているわけではないのかもしれませんが、しかし、高齢化の進み公共交通機関の少ない梶原町では患者さんのADLや生活状況、家族構成などを踏まえて通院の頻度や入院の適応などを考慮する必要があり、それらの社会的情報をスタッフ間で共有している光景をよく目にしました。特に私の研修した12月には降雪や路面凍結が多く、山間の集落に住んでいたり、介助者がおらず自宅から出ることのできない高齢者は簡単に外来受診ができない状況でした。そのような状況を踏まえて、外来受診日を臨機応変に変更したり入院で様子を見たりするなどそれぞれの患者さんの背景・事情に合わせた対応を取っており、地域に根差した医療の面白さを感じました。また梶原病院では特別養護老人ホームや障害者施設と連携した医療体制を構築している点も印象に残りました。週に1度、医師がそれぞれの施設に訪問診療を行っており入所者が病院に出向くことなく施設内で定期的な診察や処置を受けられる環境が整っていました。疾患が増悪したり転倒して骨折した入所者が入院してきた際には、それまでの患者の経過にすぐにアクセスできる点で非常に優れたシステムだと感じました。私も訪問診療に同行し診察に参加しましたが、施設で診察した患者さんが入院してきた際には事前に得ていた患者情報を踏まえることで医療介入のしやすさを体感することができました。

最初は戸惑うことも多く、不安を抱えながらの研修スタートとなりましたが、梶原病院の

先生方、看護師さん、検査技師さんや事務の方々など多くのスタッフの皆さんに優しく接していただき、とても有意義な研修となりました。年齢の近い先生方には患者の治療方針や外来対応など気軽に質問することができ親身になってアドバイスをいただきました。看護師さんとは外来・病棟での処置をサポートしていただくだけでなく、診療所への送迎や梶原での暮らし方のアドバイスもしていただきました。検査技師さんには業務の合間を縫ってグラム染色やメイギムザ染色などを教えていただきとても貴重な経験をさせていただきました。事務の皆さんにも研修だけでなく日々の暮らしのサポートまでしていただき、梶原の人の温かさを感じさせていただきました。

たった 1 か月の研修生活でしたが、梶原病院の地域ならではの医療や梶原の魅力を存分に体験することができ充実した地域研修生活になりました。この経験を糧に、今後の診療をより親身で充実したものにしていきたいと考えています。梶原病院の皆様、高知医療再生機構のスタッフの皆様、誠にありがとうございました。